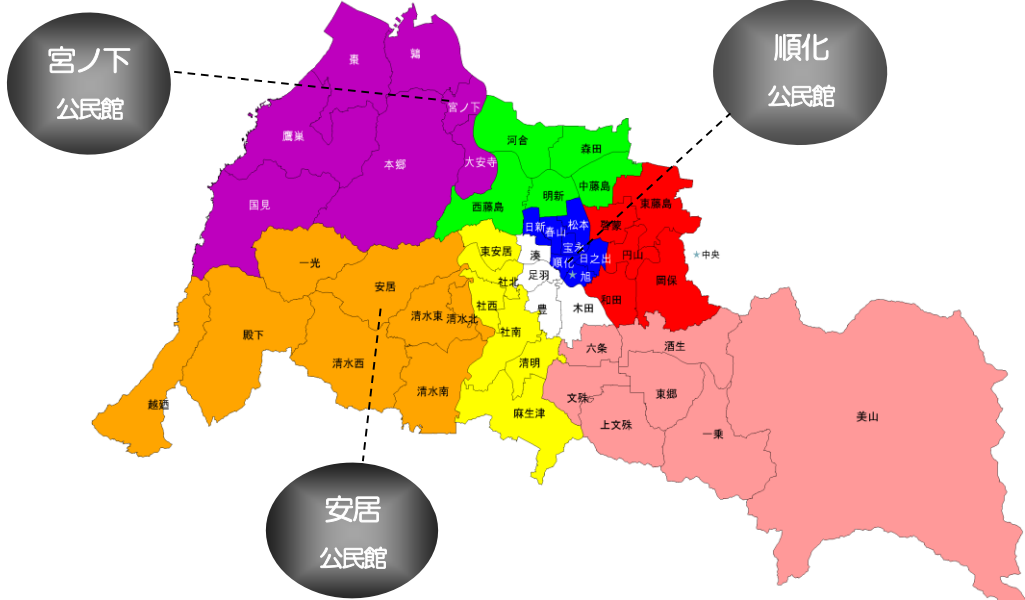


つどう

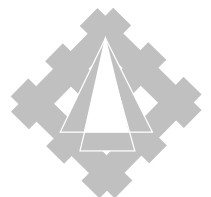
まなび

むすび

福井市の公民館

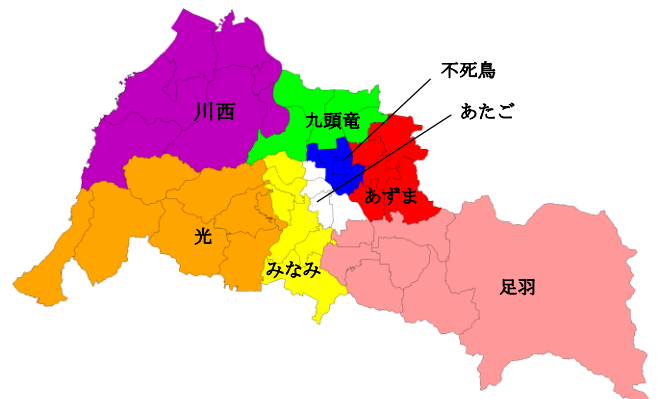


第11号



福井市公民館一覽

ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	
あたご	1	木田	木田1丁目1401	36-0042	6号	光	28	安居	本堂町7-4	37-1234	11号	
	2	豊	みのり3丁目106-8	34-0344			29	一光	下一光町6-5	37-0168	5号	
	3	足羽	足羽2丁目12-31	35-0041	7号		30	殿下	風尾町1-13	97-2377		
	4	湊	学園1丁目4-8	22-0032			31	越廼	柴崎町1-68	89-2182	7号	
不死鳥	5	春山	文京3丁目11-12	22-0057	2号		32	清水西	大森町20-43-1	98-4560		
	6	宝永	松本4丁目8-4	22-0036			33	清水東	三留町14-11-1	98-4510	8号	
	7	順化	大手3丁目11-1	20-5458	11号		34	清水南	風巻町21-17	98-4590		
	8	松本	文京1丁目29-1	22-0085	8号		35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	98-5477		
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24	54-0040	9号		川	36	大安寺	四十谷町5-20-1	59-1001	3号
	10	旭	手寄2丁目1-1	20-5364				37	国見	鮎川町195-7	88-2004	4号
	11	日新	文京5丁目1-8	21-7225	3号			38	鶉	砂子坂町5-58	83-0433	
みなみ	12	清明	下荒井町8-414	38-0043	10号	39		棗	石橋町4-14	85-1495	10号	
	13	東安居	飯塚町6-18	35-9566	4号	40		鷹巣	蓑町14-7	86-1001		
	14	社南	種池2丁目206	35-9559		41		本郷	荒谷町19-55	83-0582	6号	
	15	社北	若杉4丁目308	35-9111	創刊号	42		宮ノ下	島山梨子町22-9	59-1150	11号	
	16	社西	久喜津町65-23	34-7910	2号	足羽	43	酒生	荒木新保町37-9-5	41-2503	9号	
	17	麻生津	浅水三ヶ町1-93	38-4383	6号		44	一乗	西新町1-31	43-2001		
あずま	18	和田	御幸4丁目9-20	22-0038	8号		45	上文殊	北山町34-1	41-0516	3号	
	19	円山	北今泉町7-12	54-0048	5号		46	文殊	太田町4-11-2	38-0550	2号	
	20	啓蒙	開発1丁目2105	54-0046	10号		47	六条	天王町43-4	41-1001		
	21	岡保	河水町10-13	54-2519	7号		48	東郷	東郷二ヶ町6-13-1	41-0306	5号	
	22	東藤島	藤島町48-1-1	54-0039		49	美山	美山町2-12	90-7111			
九頭龍	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	22-0040	9号	50	中央	手寄1丁目4-1	20-5459	創刊号		
	24	中藤島	高木町64-11-4	54-0045								
	25	河合	川合鷺塚町9-18	55-0001								
	26	森田	下森田藤巻町2	56-0195	創刊号							
	27	明新	灯明寺町35-1-1	22-7880	4号							



《福井市の公民館に思う》



「公民館」という社会教育の場で学ぶこと

元中央公民館館長

元市公民館運営審議会連絡会会長

藤嶋 昭二

《人は学ぶことを止めると、老衰と頑迷が始まる！》

わたしの公務員生活での初任先は中央公園南側の中央公民館で、今から48年前の昭和45年10月5日の着任でした。ちょうど福井市の中央公民館と順化公民館が併設館として新築完成した年です。その中央公民館第1号の公民館主事の辞令から始まりました。社会人としてのデビューの場が「公民館」となりましたが、ここが社会教育の拠点であることを正しく認識するまでには正直なところ相当の時間を要しました。事務所で机を並べていた当時の順化公民館の主事さんは、何と毎日2つの弁当を持参されていたのです。「Mさん、2つも弁当どうするの？」と、尋ねました。知らなかったんですね…公民館は夜9時が閉館だということを。こんな無知蒙昧な新人をよくぞ我慢をしながら育てていただいたなあ、今でも感謝の念で一杯です。

館長さんも立派な方で、教師になろうと東京の豊島師範学校に通いながらも家業のあと継ぎを任されてふるさとに戻られましたが、教育への情熱を「社会教育の要である公民館」に注がれ、福井市の公民館の基礎を築かれました。中央公民館での私の3年半の日々は、人生の歩み方を学べた貴重な経験でした。当時の講座の中で紹介された「人は学ぶことを止めると、老衰と頑迷が始まる」という言葉が今でも脳裏に焼き付いています。

《公民館とは、公民を育てる館です！》

館長さん、主事さん、管理人さん、運営審議会の委員さんは、常に初心を忘れずに「公民館の原点は何か」ということを自らに問い続けることが大切だと思います。そして、足を運んでくださる地域の方々に学びの支援と奉仕をすることを天職としてとらえ、率先して学び続ける「公民館人」であるよう努力されることが求められています。

全公連発行の「月刊公民館」では、毎年4月号で「公民館入門ガイド」を特集し、その原点を紹介しています。年に1回でも、こぞって公民館の原点を確認し合い、公民館誕生71年目を迎える今、新たな気持ちで公民館の歌「自由の朝」を、その書かれている詞(ことば)を味わいながら歌いつつ、「自由の朝を慶び、学びによって文化の泉をくみ取り、明日へと生きる力」を蓄えながら来館者を待ち、尊い任務に入るといふ流れはいかがでしょうか。

岐阜県伊那郡岩村藩の儒学者、佐藤一斎は「学び続けることの大切さ」を説きました。また、公民館の生みの親として知られている寺中作雄は「公民館とは公民の家である」と述べていますが、私は視点を変えて「公民館は、住民を公民に育てる館である」と捉えたいと思います。公民館での様々な学びによって、地域の住民から、公共社会のために尽力できる公民になっていただくことが究極のねらいだと思います。そして、1人でも多くの方が、「地域の公民」として活躍できる場と機会を発掘することが、縁あって関わった多くの先達を含めた「公民館人」の願いではないでしょうか。

県都の顔、そして歴史と文化の息吹を感じるまち「順化」

順化公民館

1 順化地区の概要

順化地区は福井市中心部に位置し、福井駅、県庁・市役所などの官公庁や企業等のオフィスが立ち並び、商店街やホテル、デパート、繁華街などがある。また、2023年(予定)の北陸新幹線延伸が待たれる中、順化地区でもある福井駅周辺では「県都の顔」として様々な再開発が進められている。

歴史的には福井藩初代藩主で福井城を築いた結城秀康や戦国武将で北ノ庄城を築いた柴田勝家ら、後世に名を残す人物にゆかりのある地区である。昨今、柴田神社の整備の他、福井城址の御廊下橋や山里口御門などが復元され、グリフィス記念館の建設、浜町の整備、福井市中央公園再整備など、地域の歴史を残す事業が行われている。

かつては、順化地区に住みそこで働く住民が多数であったが、近年は、居住地や商業施設を郊外に移すなど、ドーナツ化現象の空洞部分となってきた。地区内には駐車場や分譲マンションが増え、隣近所の付き合いや連帯意識の絆が薄れつつある。

こうした中、まちの伝統と人情の美しさを守ろうと、町内会組織や社会教育団体では、公民館を拠点として連携し、独自の地域づくりの活動を行い成果をあげている。例えば、春には、石垣と水を湛える堀が残る福井城や桜並木が美しい足羽川沿いの浜町で、ライトアップなどを行い、人々が夜景に映える桜の美しさを楽しむ場をつくっている。その他、中心市街地、県都の顔としての様々なまちづくりの活動が行われ、今まで以上に賑わいを見せ、観光客の増加にもつながっている。

平成30年5月1日現在、人口は3,587人、世帯数は1,693戸である。

2 地域活性化と安全・安心なまちづくり

(1) 鎮魂とまちづくり

「福井城址お堀の灯りライトアップ事業」

福井城址およびその周辺で毎年7月に開催しており、平成29年度で8回目となる。この年のテーマは、

「次世代に語り継ぐ不死鳥の願い」で、お堀の水面に約2,000個、地上の灯りを含めると6,800個の美しい揺らめきを、手作りの灯籠などで醸し出した。

これは、築城以来の往時を偲びつつ、空襲や震災などの火災から逃れようとお堀に飛び込み亡くなった人々の鎮魂のために行っている。あわせて、足羽山西墓地からお堀沿いに移転した「順化万霊供養塔」での法要や、空襲・震災を語り継ぐ活動も行っていて、福井城址付近では1日を通して犠牲者を悼む日となっている。

実施に当たっては、順化地区のまちづくりに関わる団体で実行委員会を構成し、市民ぐるみで新たな福井のまちづくりを推進する活動の1つと位置づけている。最近では、順化小学校、こども園など30を超す団体からの協力を得ている。また多数の地区の住民が公民館に集まり、水面に浮かべる灯籠の作成などの準備を行っている。

(2) 防災の進んだ地区に

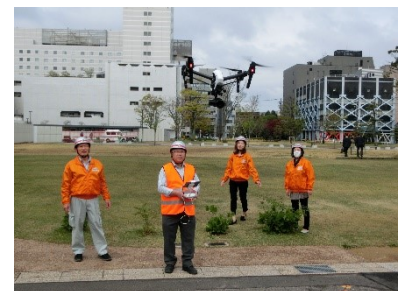
「ドローンを活用した自主防災」

市中心街の順化地区はビルが多く、大地震などが起こった際には倒壊の恐れもある。そこで、順化地区自主防災連絡協議会では、危険箇所の確認、避難経路の設定、災害状況の確認を空から担う

「ドローン部隊」を発足させた。地区の自主防災会の実行委員が中心となり始まったが、



【お堀に浮かぶ鎮魂の手作り灯籠】



【防災ドローンの活用訓練】

公民館でも平成 29 年度から地域課題として「防災」を設定し、教育事業の IT 講座の中でドローンの操作等を学ぶ機会を設け活動の広がりを支援している。

3 特色ある教育事業（郷土学習）

中心市街地活性化の事業などで、地区にある通称・浜町通りやグリフィス記念館、能楽堂、福井城址など、歴史的な文化施設等が整備されてきている。

そこで公民館では、このような歴史ある文化施設を活用して和 문화体験を行い、体験的に地区の歴史を学ぶ講座を企画した。

(1) 「浜町風情」を体験し地域の誇りを伝えよう！

「グリフィス記念館で三味線体験」



浜町は古くからの料亭街で、三味線や鼓、長唄などの音曲が風情を醸し出す街である。そこに、グリフィス記念館が完成し

た。そこで、同館に親しみをもつとともに、浜町で三味線を弾くことで「浜町風情」に触れてもらおうと、この講座を企画した。当日は、長唄を鑑賞した後、三味線を持って練習した。参加者からは、「西洋式の建物に和の音が思った以上にマッチし感動した」などの感想が寄せられた。

このような講座を通して、人情味があり華やかな高級料亭街としての「浜町風情」が、地区の人々の心の中に残っていくことを願っている。

(2) 地域の文化施設に親しもう！

「ハピリンの能舞台見学と能楽体験」

ハピリンの中に福井市の能楽堂が完成し、順化地区は「能楽堂のあるまち」になった。そこで、能を身近に感じてもらえる



よう「バックステージ×能楽ワークショップ」という体験講座を企画した。「そもそも能とは・・・」から始まり、「謡」「お囃子」「仕舞」の体験をし、普段

は入ることのできない能舞台の裏側も見学した。参加者からは、能への興味が高まり、「能面や衣装を見たい」や「謡を習いたい」などの声が聞かれ、地区の人々が新たな文化との出会う機会になった。

(3) 福井城の魅力を発見しよう！

「城好き高校生と福井城址めぐり」

全国の城の魅力を発信している福井の「城好き高校生」と、順化公民館が連携し、福井城址を巡るイベントを企画した。こ



この高校生が各地の城のことを学ぶうちに、福井は他県に比べて城を活用したまちづくりの取組が遅れているように感じたことがきっかけで、この日福井城のガイドとしてデビューした。当日参加した順化地区の住民にとっては、たくさんの写真や資料をもとに、実際に歩きながら福井城のすばらしさを学ぶすてきな機会となり、「若い人が興味のあることを掘り下げていることがすごい」などの声も聞かれた。

これからも、城の基礎知識を学ぶ講座などを開催することで、福井の魅力の発信につながると考える。

4 終わりに

順化地区は、ドーナツ化現象により人口・世帯数の減少や少子・高齢化が進み、地区の活性化が緊急の課題となっている。また住民相互の「絆」が希薄化し、地域コミュニティも弱体化しつつある。

そこで順化公民館では、地域の生涯学習やコミュニティ活動の拠点として、各関係機関や団体と連携を深めながら、地区の特色を生かしたまちづくりをめざす教育事業や各種事業をさらに活性化させることで、地区住民の生涯学習の推進や地域コミュニティの形成に貢献していきたい。

福井城、福井駅などを中心に、福井県・福井市の顔として発展してきた順化地区。歴史や文化を守り引き継ぎながら、地区をあげて、未来に向けてのまちづくりに取り組んでおられます。これからも、順化公民館を中心に、様々な活動を通して人と人がつながり、古きものと新しいものがミックスされた人情溢れる地区として発展されますことを祈念します。

つたえよう つなげよう 安居の郷

安居公民館

1 安居地区の概要

福井市の中心部より西方約8km、東西に細長い14の町が接続している中山間地で、南側に未更毛川が流れ、ホタルの生育に適した区間では、夏の風物詩としてホタルの乱舞が楽しまれている。北側は、標高200mの安居山脈（通称西郷林道）が東西にそびえ、道路沿いに約800本のソメイヨシノが植林されている。

明治22年に市町村制がしかれ、今日の安居地区のもととなる丹生郡西安居村として誕生、昭和29年福井市に編入し現在に至っている。

昭和40年代後半に団地の造成が進み、それまで8町であったところ、平成19年には14町に増加し、福井市のベッドタウンとして発展している。また、平成7年から「福井市総合運動公園」の整備が進められ、平成21年までに、野球、ソフトボール、サッカー、グラウンドゴルフ、マレットゴルフ、テニス等の会場整備が終わり、多くの利用者で活気づく町に変貌している。

歴史をひもとくと、北堀貝塚をはじめ安田町足高山古墳群、末町須恵器の出土、本堂町の高雄神社神事等文化財として価値のあるものが多く存在している。

平成30年5月1日現在、人口は3,293人、世帯数は1,138戸となっている。

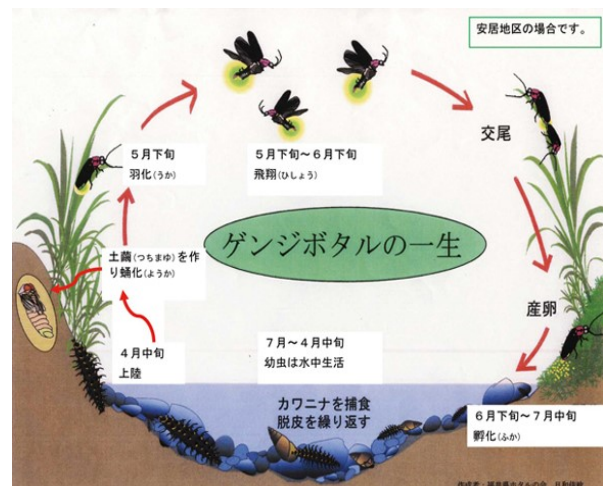
2 ホタルのついでにモアイ狩り

(1) 安居地区の環境への意識を高めるために

安居地区では、地域ぐるみでゲンジボタルとミズアオイの保全に取り組んでいる。「ホタルの光や花に触れると気持ちが動く。そこから自分の地域の環境への意識を高めていきたい」と安居公民館前館長は、地域の自然を代表する2つのシンボルにかける思いを語る。平成16年、地区を流れる未更毛川にも福井豪雨の影響が及び、翌年夏飛び交うホタルの姿がほとんど見られなくなった。地域の誇りの景色の危機に公民館主事や住民が動いた。ホタルの幼虫の飼育に詳しい人を講師に迎えて、ゲンジボタルの飼育についての勉強会を重ねた。平成21年から、公民館の郷土学習を支援する



ための学習として、「安居の里を守る会」を結成し、ゲンジボタルの幼虫の飼育と、餌になるカワニナの飼育をはじめ環境講座が確立した。しかし、平成20年頃に、土地改良にともなう水路工事などで地域内のホタルが激減してしまった。「安居の里を守る会」のメンバーが、安居地区内で捕獲したホタルの卵をかえし、幼虫を未更毛川に放す活動を続けた。また、平成24年からは未更毛川クリーン作戦を実施し、地域の宝であるホタルやミズアオイを育む自然豊かな川を次世代に残していく活動を続けている。その結果、平成29年6月には未更毛川でのゲンジボタル出現数は1100頭をカウントした。



(2) 安居地区の魅力を実感するために

6月、地区の地域資源を見つめ直す活性化イベント「ホテルのついでにモアイ狩り」(14:30~21:00)が本堂町一帯で開かれた。企画したのは、地区の青年団メンバーや市の若手職員有志らが結成した「チームモアイ」。「安居」だから、「あご」が特徴のモアイ像を地区のシンボルに掲げ、地区の地域資源を生かすまちづくりに取り組んでいる。このイベントは、公民館とチームモアイが連携して開き、安居小と東安居小の児童約80人とその保護者が参加した。「ムラロゲイニング」と呼ばれるゲームは、児童が16チームに分かれて地図を見ながら町内を巡回し、18カ所に掲げられた問題に挑み得点の合計を競うもの。また、公民館の呼びかけに集まった中高生が作った粘土のモアイ像150体が隠してあり、集めた分だけ得点に加算される。夕食は、公民館の「安居の里おもてなし塾」の講座生が調理した郷土料理「あぶらげめし」など5品を味わった。夜になると公民館と「安居の里を守る会」が環境保全に努めている未更毛川沿いでは、たくさんのホテルが宙を舞い、ほのかな光に児童は心を奪われていた。地区のまちづくりの中核を担う「安居ふるさと創り委員会」の男性は、「子どもがこんなに本堂にあふれるなんて本当に久しぶり。いいイベントになった。大成功だね」と目を細めていた。

3 オシッサマのついでにモアイフェス

「オシッサマのお渡り」は、安居地区の高雄神社の例祭として毎年10月の第2土曜と日曜に開かれている。宵の宮に祀られている猿田彦と天鈿女(オシッサマ)の二神が、約800m離れた待手の宮へお渡しする神事である。獅子頭をかぶった「オシッサマ」が、太鼓や童歌とともに町内を練り歩く。800年以上の歴史があるとされ、市無形民俗文化財に指定されている。「オシッサマのついでにモアイフェス」は、「オシッサマのお渡り」に合わせてイベントを行い、集客を図り、例祭や伝統的な郷土料理をPRし、安居地区の伝統や魅力を発信するイベントである。高雄神社前に設けられた販売所では、「安居の里おもてなし塾」の講座生が調理した「安居の里おもてなし膳」を販売した。「黒米ごはん」、「具汁」、「ごっと味噌」、「大根のおあえ」、「じゃがいもの三杯酢」、「季節の天ぷら」、「ホテルゼリー」で600円、これに「黒米くるみもち」、「あごころステ

ックバー」、「あぶらげめし」が付いて1000円で販売している。「数十年ぶりに食べた郷土の味。子どもの頃、おばあちゃんに作ってもらったのを思い出した」としみじみ語る人もいた。多くの人が、「こんなに郷土料理があるなんて知らなかった」とおいしそうに箸を進めていた。



4 終わりに

ホテルが乱舞する様子を觀賞してもらうためのホテルウィークをはじめて5年目になる。公民館に電話等で予約をしてもらい、「安居の里を守る会」のメンバーが区内を歩きながら、ホテルがよく見られる場所を案内するものである。

今年からは、「安居の里おもてなしツーリズム」という事業を立ち上げる。これは、公民館に駐車してもらい、①公民館の資料室を見学して、安居の歴史を知る、②「安居の里おもてなし膳」を食べて、安居の郷土料理を堪能する、③ホテルの幼虫飼育に関する話や未更毛川のクリーン作戦等に関する話を聞く、④ホテルの幻想的な光の乱舞を現地で觀賞する、という内容で実施する。地区内外の人を対象に、6月5日から6月11日に計画している。市政広報で参加者を募集する。

来年以降も、「地域の宝」をコラボした「安居の里おもてなしツーリズム」を充実発展させていきたい。

福井市内でホテルが自生しているところは何カ所かありますが、安居地区のように、公民館の教育事業としてホテルの幼虫飼育や成虫観察会を行っているところは他に例を見ないのではないのでしょうか。また、保育園、小学校、中学校と連携した教育事業が多いのも安居公民館の特徴だと思います。

住んでよかった宮ノ下、住みたくなるまち宮ノ下

— 潤いと活力のある、花と歴史の郷 —

宮ノ下公民館

1 地区の概要

宮ノ下地区は、福井市中心部から北西に約9kmのところであり、丹生山地と九頭竜川に挟まれ、中央には国道416号線が縦断している農村地帯である。近年、総合病院、医療大学、ホームセンター、ドラッグストアなどの生活関連施設が立ち並び、川西地区の玄関口として中心的な町並みへと変貌をとげている。

昭和32年の町村合併により、旧坂井郡大安寺村が分村して、剣大谷、江上、御所垣内、仙、島山梨子、内山梨子の6つの集落が川西町に編入し、川西町東部地区となった。昭和42年に川西町が福井市に編入して福井市宮ノ下地区となり、宮ノ下公民館としての業務がスタートした。また、平成25年8月には、公民館が仙町から島山梨子町に移転新築を行っている。

古来この地区は、継体天皇ゆかりの地（継体天皇の母振姫の生誕の地であり、王の生育の地）御所垣内町を囲み、また、仙町の山稜にある一千坊跡地と古墳群があたかも地区の栄枯盛衰を見守っているような地形となっている。地区内には、阿弥陀仙寺跡地、金劔神社の絵馬や泣き岩、県内最古の石灯籠など、数多くの歴史遺産が残されている。

平成30年5月1日現在、人口は860人、世帯数は294戸となっている。

2 秋空の下に咲きほこる1億本のコスモス

～ 地区民の誇り「コスモス広苑事業」～

(1) 立ち上げから現在に至るまで

平成5年に1軒の農家が減反の田んぼを利用してコスモスの大きな迷路を造って話題となった。このことがきっかけとなりコスモス栽培への関心が高まり、次年度より減反政策の休耕田にコスモスを育てる取組が始まった。地区内の機関・団体を網羅した「宮ノ下花の郷づくり実行委員会」が発足し、コスモス畑の名称を「宮ノ下コスモス広苑」として管理・運営を行うこととなった。平成7年に「コスモスまつり」がスタートし、平成9年には、名称を「福井コスモスまつり」と改め

現在に至っている。その間、実行委員会では、九頭竜川堤防沿いに水仙の球根3万個を植え付けたり、桜の苗木200本を植樹したりするなど、花の郷づくりの取組も継続的に行ってきた。広苑事業は、平成28年度から「まちづくり宮ノ下地区委員会」が継続し、平成30年度で24回目を迎えることとなる。

面積17.5ha（東京ドーム約4個分）の広大な敷地において、種まきから除草、管理、会場設営、まつりの準備など、毎年6月から11月までの長期に渡る地区民の努力により、開苑期間には約1億本のコスモスが見事に咲き誇り、県内外から多くの人々が訪れている。

長年の取組の中で、地区内では世代を超えた融和と連帯意識が深まるとともに、今や宮



ノ下地区を県内外にアピールする大きな事業となっており、平成10年に「豊かな村づくり北陸農政局長賞」、平成11年に「農林漁業とくらしのイメージアップ活動福井県知事賞」を受賞している。

(2) 福井コスモスまつり

例年、10月上旬の日曜日に開催している。当日は風船飛ばし、太鼓演奏、ジャンボかぼちゃの目方当てクイズなどのイベントで盛り上がり、地元の野菜や焼き鳥、そばなど、約30もの模擬店テントが並び多くの人で賑わう。また、トラクターに荷台を取り付けた花トラ

車（荷台の側面看板は川西中学校生徒がデザインした）が苑内を走り、広苑の名物となっている。



3 地域をアピールする「ウェルカム植栽事業」

国道416号線の天管生橋を渡り終えると、北詰左側の法面にさつきで表現された“宮ノ下”の文字が目飛び込んでくる。当地区は川西地区の玄関口となるため、より知名度を高めようという思いからこの事業が始まった。まちづくり委員会、壮年会、銀齢会が連携して、平成14年度から継続的に取り組んでいる。

年4回の整備や除草は傾斜地での作業となるため大変な労力を要するが、共に汗を流すことによって地区民同士の絆が深まるとともに、川西地区を訪れる人々

への“おもてなし”の気持ちを表現するうえで大変有意義な事業となっている。



4 三世代“こぞって”参加する楽しい地域づくり

地域の高齢化が進む中、子どもからお年寄りまで誰もが楽しく交流し親睦を深められるよう、各種団体が連携し、年間を通して様々な行事を行っている。

(1) 地域の絆を深める4大まつり&お月見コンサート

九頭竜川堤防下の満開の桜の下で行われる春の「観桜会」、公民館前広場で、よさこい・民踊・抽選会などで夜遅くまで賑わう「夏まつり」、秋の「コスモスまつり」、大きな櫓を立て、神主の神事で無病息災を祈念して行われる「冬まつり(左義長)」など、準備から後始末まで地区民が一丸となって取り組み、地域を盛り上げている。また、新規事業として平成28年度からは9月に内外の音楽グループを招いて、野外での「お月見コンサート」を行っている。(雨天時は屋内)



(2) みんな集まれ! 夏休みYDKクラブ

子育て支援委員会と育成会の共催で、夏休みに子どもたちの学習会&体験活動を行っている。Y(やれば)D(できる)K(こ)というユニークなネーミングで、毎年子どもたちも楽しみにしている。地域のボランティアや元教員の人たちの指導で、午前中1時間しっかり学習した後、日頃学校ではあまり学ぶことができないような様々な体験活動を行っている。

平成29年度は、幼稚園児から6年生まで38人が参加して計8回実施

された。流しそうめん・詩吟教室・調理実習・消防訓練・ラジオ作り・落語体験・オカリナ演



奏体験・竹馬作りなど、楽しい企画が盛りだくさんで、地域の大人と子どもの交流を深める大変有意義な活動となった。

5 終わりに

「福井コスモスまつり」は、平成30年度で24回目を迎え、地域総参加型の一大イベントとして定着している。開苑期間には毎年県内外から多くの人々が訪れ、今や市内有数の秋の名所となっている。

長年にわたる広苑事業や4大まつり、その他各事業の取組は、地域の交流や連携、また、地域の誇りを皆が感じるという大きな成果につながっている。

今後の課題としては、①世代間交流の促進、②知識や経験、地域の歴史や遺産などの次世代への継承、③高齢者の生きがいづくり、④青少年の健全な育成支援などがあげられる。これからも、自らの故郷に誇りをもって、「住んでよかった宮ノ下、住みたくなるまち宮ノ下」を合言葉に、地区民一丸となって楽しい地域づくりを推進していきたい。

地道な努力を重ねてこられたコスモス広苑事業を大きな柱として、子どもからお年寄りまで地区民がこぞって地域づくりに取り組まれ、大きな成果につながっています。

今後もコスモス広苑が福井を代表する観光名所としてますます発展し、地域の様々な事業を通してさらに地区民の絆が深まっていくことを願っています。

福井市の公民館のあゆみ（その10・最終）

14. 全国優良公民館、文部科学大臣賞受賞の記録

福井市の公民館は、今日まで半官半民による福井市独自の運営方法により、特色ある様々な教育事業の展開、各地区の各種団体や地区事業に関する自主活動への支援・連絡調整など、地域のコーディネーターとしての役割を果たしつつ着実な歩みを続けてきた。その間、館長および主事の熱意ある取組により、地域コミュニティの機能保持と活性化が高まり、大きな成果をあげてきた。

このような経緯の中で、以下のように数多くの公民館が、全国優良公民館として文部科学大臣表彰を受け、福井市の公民館活動が全国に誇れるものとして高い評価を得ている。

年度	公民館名	年度	公民館名
昭和22年度	丹生郡殿下村公民館	平成18年度	福井市春山公民館
昭和52年度	福井市順化公民館	平成19年度	福井市麻生津公民館
昭和62年度	福井市社南公民館	平成21年度	福井市湊公民館
平成3年度	福井市中藤島公民館	平成23年度	福井市円山公民館
平成4年度	福井市旭公民館	平成24年度	福井市森田公民館
平成5年度	福井市東藤島公民館	平成25年度	福井市社北公民館（最優秀館）
平成13年度	福井市東安居公民館	平成27年度	福井市安居公民館
平成15年度	福井市東郷公民館	平成28年度	福井市和田公民館（優秀館）
平成16年度	福井市啓蒙公民館	平成29年度	福井市木田公民館
平成17年度	福井市岡保公民館		

※昭和22年の殿下公民館は、生活科学化協会、毎日新聞社の表彰

※平成15年以前は文部大臣、以後は文部科学大臣表彰

※平成25年度以降、優良館の中から優秀館5館を選出、内1館を最優秀館として表彰

○平成28年度 和田公民館が文部科学大臣賞（全国優秀館）を受賞

全国の優良公民館の中から5館が選ばれ、その後の最終審査で全国優秀館に決定した。和田地区では「和田発展不己（やまず）」を合言葉に、公民館を拠点として様々な事業に取り組んでいる。特に、地区の歴史や暮らしぶりを手づくりの劇を通して表現し、地区の名物（自慢）となっている「くちパク和いわい劇団」や、地区住民のふれあいの場として開催される「れんげ和ん田あ〜らんど祭」が定着してきたことなどが高く評価された。

○平成29年度 木田公民館が優良公民館として、文部科学大臣より表彰

木田公民館では、木田ちそ・木田青かぶ・板垣大根などの伝統野菜を生かし、子どもから大人まで参加する畑体験や伝統料理作りなどの郷土学習を継続している。また、「げんきだ・やるきだ・クリーン木田」を合言葉に、地域コミュニティの活性化をめざして、それぞれ福祉部会・人づくり部会・環境部会の中で特色ある事業を展開している。

「福井市の公民館」 ～ つどい まなぶ むすぶ ～

創刊号からのバックナンバーを

福井市中央公民館ホームページでご覧いただけます。



<http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k/sub5.html>



中央公民館ホームページ

QR コード

第11号 掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
順化公民館	〒910-0005 福井市大手3丁目11-1	(0776) 20-5458	jyunka-k@mx1.fctv.ne.jp
安居公民館	〒918-8076 福井市本堂町7-4	(0776) 37-1234	ago-k@mx1.fctv.ne.jp
宮ノ下公民館	〒910-3111 福井市島山梨子町22-9	(0776) 59-1150	msita-k@mx1.fctv.ne.jp

福井市の公民館 第11号 編集委員

中央公民館運営審議会委員	中嶋貴美江・小西 信子
生涯学習室	宮川 和也
社会教育指導員	稲葉 友昭・嶋田 直美
	田中 政広
中央公民館	平馬 吉隆・前田誠一郎
	塩崎めぐみ・半田 実紀



福井市の花 あじさい

公民館の歌 (自由の朝)

山口晋一 作詞
下総皖一 作曲

快活に ♩ = 104

一. へ いわの はるに あたらしく
二. こ ころの はなの に おやか
三. は たらく ものの や すらか に

きょうどを おこすく よろこびきも こうみんかんの
きょうどに ひらき たのしき も (こ)みんかんの

つどいからどきま けぼあうをこむろなうごつと やかし
つどいからどきま けぼあうをこむろなうごつと やかし

にい じぶあ ゆんすのの あいさすみら たくそ えとて

公民館の歌 (自由の朝)
山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

一. 平和の春に あたらしく
郷土を興す よろこびも
公民館の つどいから
とけあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう

二. 心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしさも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみとろう

三. 働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしさも
公民館の つどいから
まどいになごむ ひとときに
明日への力 そだてよう

公民館の歌 **自由の朝** について

昭和21年(1946年)7月、文部次官通牒により「公民館の設置」が奨励され、これを受けて9月には、「公民館設置促進中央連盟」が官民の協力で結成されました。

この連盟と毎日新聞社が、文部省後援により実施したのが、公民館活動の理念を示す「公民館の歌」の歌詞の全国募集です。全国からの1,017件の応募から作家の川端康成、文部省(当時)、日本放送協会、毎日新聞社、日本レコード協会などの代表による審査団によって選ばれたのが、この歌詞です。

なお、作曲者の下総皖一は明道中学校、藤島高等学校の校歌を作曲しています。

福井市の公民館

監修 福井市生涯学習室
発行 平成30年6月
福井市中央公民館
〒910-0858
福井市手寄1丁目4-1
TEL 0776-20-5459
FAX 0776-20-1538
Eメール: cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp
http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k